

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25

「火山」投稿時原稿の見本

火山学会編集委員会*・第二著者**・第三著者***

(2016年○月○日受付, 2016年○月×日受理)

Template of Manuscripts for the BVSJ

Editorial BOARD*, Author2 SIRNAME** and Author3 SIRNAME**

*〒113-0033 東京都文京区本郷 6-209 モンテベルデ 406

特定非営利活動法人 日本火山学会事務局

The Volcanological Society of Japan, 406, 6-209 Hongo, Bunkyo, Tokyo

113-0033, Japan.

**〒123-1234 第二著者住所

所属機関名

Affiliation, 1-2-3 Street, City, Prefecture 123-1234, Japan.

***〒123-1234 第三著者住所

所属機関名

Affiliation, 1-2-3 Street, City, Prefecture 123-1234, Japan.

Corresponding author: Editorial Board

e-mail: kazan-gakkai@kazan.or.jp

26 English abstract should be written here within 600 words. Abstract should
27 be concise and informative. Within five key words should be added below,
28 being separated with commas. Please do not use “keywords” but do “Key
29 words” instead in bold format. Abstract and key words are necessary for the
30 manuscript category of “Article”, “Letter” and “Review”. Note that
31 “Scientific Communication” does not have these.

32 **Key words:** volcano, manuscript, PDF format, submission

33

34 1. 原稿の書き方

35 1-1 章タイトル

36 章タイトルは行頭を1文字下げること。節タイトルも同様に行頭を
37 一字下げる。ただし、英文原稿の場合は字下げしないので注意が必要
38 である。章および節タイトルはボールド体である。章タイトルは前の
39 段落から1行空けるが、節タイトルは行を空けない。

40 1-2 本文

41 原稿はワードプロセッサを用いて書かれたA4版相当のPDFとする
42 ことになっている。このテンプレートは1行全角30文字、1ページ
43 25行である。刷り上がりは、B5サイズの2段組となり、文字のみの
44 場合、1ページあたり全角で約2,300文字が入る。このテンプレート
45 の1ページは全角で750文字であるので、テンプレート3ページ分が、
46 刷り上がりの1ページ分に相当することとなる。投稿時の仕上がりペ
47 ージ数見積もりの目安としていただきたい。なお、編集作業の都合上、
48 受理後の最終原稿はWord形式での提出をお願いしているのでご協力
49 願いたい。

50 1-2-1 本文中の引用

51 本文中で引用する場合，同一著者が同年に書いた2つ以上の論文を
52 引用する場合には年号の次に a, b, c,... を付けて区別する．長編の論文，
53 単行本などの一部を引用するときは，引用箇所のパージを付記する．
54 複数の論文を括弧引用するときは，文献の年代順に並べることとする
55 （第60巻4号までは，著者名のアルファベット順に並べていたが，
56 2015年に投稿細則を改訂した）．例：○については，いくつかの先行
57 研究により～とされている（Ito, 1885; Kuroda and Yamagata, 1888b,
58 1889; 大隈・他, 1898; Ito, 1900a; Yamamoto *et al.*, 1913; 高橋・加藤，
59 1921）．

60 1-2-2 引用文献リスト

61 論文末尾に付ける引用文献リストは著者の姓のアルファベット順，
62 同一著者（共著者も含めて）のものは発表の年代順に配列する．筆頭
63 著者が同一で，単名の論文，共著論文を配列する場合には，単名論文
64 （年代順），2名の著者による論文（年代順），3名以上の著者による
65 論文（年代順）の順に配列する．各引用文献は著者の姓名，発表年，
66 表題，誌名，巻，ページの順に並べる．

67 雑誌名の略記法は，投稿細則に従うが，投稿細則に例示がないもの
68 については，Web of Science の Journal abbreviation を参照する．なお，
69 URL を引用する必要がある場合には，原則として引用文献リストに
70 は載せないで脚注に送る¹．

71 1-2-3 文字表記

72 (1) 漢字と仮名の混在に注意すること．「ともに・共に・伴に」，「お
73 よび・及び」，「たまり・溜まり・溜り」，「ケイ酸・珪酸」，「わかる・

¹ 日本火山学会ホームページ．
<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/J/index.html>

74 分かる」などの混在が多い。また、「表れる・表われる・表す・表わ
75 す」など、送り仮名の混在にも注意していただきたい。

76 (2) wt.% と wt% などの表記については、同一原稿の中で統一す
77 ること。

78

79 2. 余白

80 上のように、新しい章を開始するときには1行空ける。余白は、査
81 読コメントや編集上の修正を記入するために必要である。各ページ、
82 上、下、左に2.5cm、右に5.5cm程度の余白を空けること。ページの
83 左端には、通しの行番号を付ける。

84

85 4. おわりに

86 その他の詳細については、投稿規定・投稿細則を参照していただき
87 たい。

88

89 謝 辞

90 謝辞欄もこのように全角一文字文だけ字下げする。

91

92

引用文献

93 アシモフ, I. (玉虫文一・竹内敬人 訳) (2010) 化学の歴史. 筑摩書房,
94 東京, 328p.

95 笠原順三・鳥海光弘・河村雄行 (編) (2003) 地震発生と水：地球と
96 水のダイナミクス. 東京大学出版会, 東京, 392p.

97 Koto, B. (1916a) The eruption of Sakurajima prior to 1914. *J. Geol. Soc.*
98 *Tokyo*, **23**, 165-180.

99 Koto, B. (1916b) The great eruption of Sakurajima in 1914. *J. Coll. Sci.,*
100 *Imp. Univ. Tokyo*, **38**, Art 3, 1-237.

101 Macdonald, G. A. (1972) **Volcanoes**. Prentice-Hall, Englewood Cliffs. N. J.,
102 510p.

103 Macdonald, G. A. and Katsura, T. (1962) Relationship of petrographic
104 suites in Hawaii. In *Crust of the Pacific basin* (Macdonald, G. A. and
105 Kuno, H. eds), 187-195. *Geophys. Monograph*, **6**, Amer. Geophys. Union,
106 Washington, D.C.

107 中村一明 (1986) 火山とプレートテクトニクス. 火山, **30**, S1-S16.

108 Oreshin, S. I. and Vinnik, L. P. (2004) Heterogeneity and anisotropy of
109 seismic attenuation in the inner core. *Geophys. Res. Lett.*, **31**,
110 doi:10.1029/2003GL018591.

111 Spieler, O., Kennedy, B., Kueppers, U., Dingwell, D. B., Scheu, B. and
112 Taddeucci, J. (2004) The fragmentation threshold of pyroclastic rocks.
113 *Earth Planet. Sci. Lett.*, **226**, 139–148.

114 徳永朋祥 (2003) 地殻浅部での水の移動. 「地震発生と水」 (笠原順
115 三・鳥海光弘・河村雄行 編) , 135–154. 東京大学出版会, 東京.

116 Walker, G. P. L. (1980) The Taupo pumice: Product of the most powerful
117 known (ultraplinian) eruption? *J. Volcanol. Geotherm. Res.*, **8**, 69-94,
118 doi:10.1016/0377-0273(80)90008-6.

119 White, S. M., Crisp, J. A. and Spera, F. J. (2006) Long-term volumetric
120 eruption rates and magma budgets. *Geochem. Geophys. Geosy.*, **7**,
121 Q03010, doi:10.1029/2005GC001002.

122